

楊名時太極拳50周年記念 長崎県支部大会

鹿児島と長崎 県支部交流大会

2010年は楊名時先生が日本に太極拳を伝えて50周年。誕生月である10月（お誕生日は10日です。つまり'10/10/10!）を祝賀月間とし、全国一斉にイベントを開催。長崎は10月31日(日)の第14回合同審査・研修会を「50周年記念長崎県大会」と銘打って鹿児島県支部と合同のお祝い行事を行いました。



★画像はクリックすると大きくなります

2010年10月31日(日)

大会 第14回合同審査・研修会

時間★13:00受付 13:30~16:30

場所★長崎県立総合体育館サブアリーナ

(長崎市油木町7-1 tel.095-843-6521)

11月1日(月)

朝稽古 時間★10:30~11:00

場所★長崎孔子廟

(長崎市大浦町10-36 tel.095-824-4022)

●[大会報告と写真レポート](#)

●[50周年記念品作りました](#)

↓クリックすると各ページが開きます↓

●[懇親会](#)

●[朝稽古](#)

大会報告

長谷川くみ子支部長

10月31日(日)午後1時30分から県立総合体育館で行われた50周年記念大会は、田畑昭志鹿児島県支部長の名案を受けて、支部交流というさらに意義深い内容になりました。

澄みきった秋晴れのなか鹿児島から10名を迎え、100名の仲間が集いました。講師予定の江端登美子先生はご家族の急病で、残念ながら欠席されましたが、鹿児島県支部名誉顧問で同県日中友好協会会長の海江田順三郎先生の興味深いお話を伺う機会に恵まれました。



メインは大スクリーンでの楊名時先生の24式と八段錦の上映でした。暗くなった会場に映し出される演舞、それはまさしく「からだを動かす和の芸術」、感動の拍手がわき起こりました。望塵莫及、改めて師家の大きさを知りました。

絵本作家・長谷川集平の講演「楊名時太極拳の時代」では、あまり語られることのないサブカルチャーとしての側面や、師家のエピソードなど、時間が足りないほどでした。

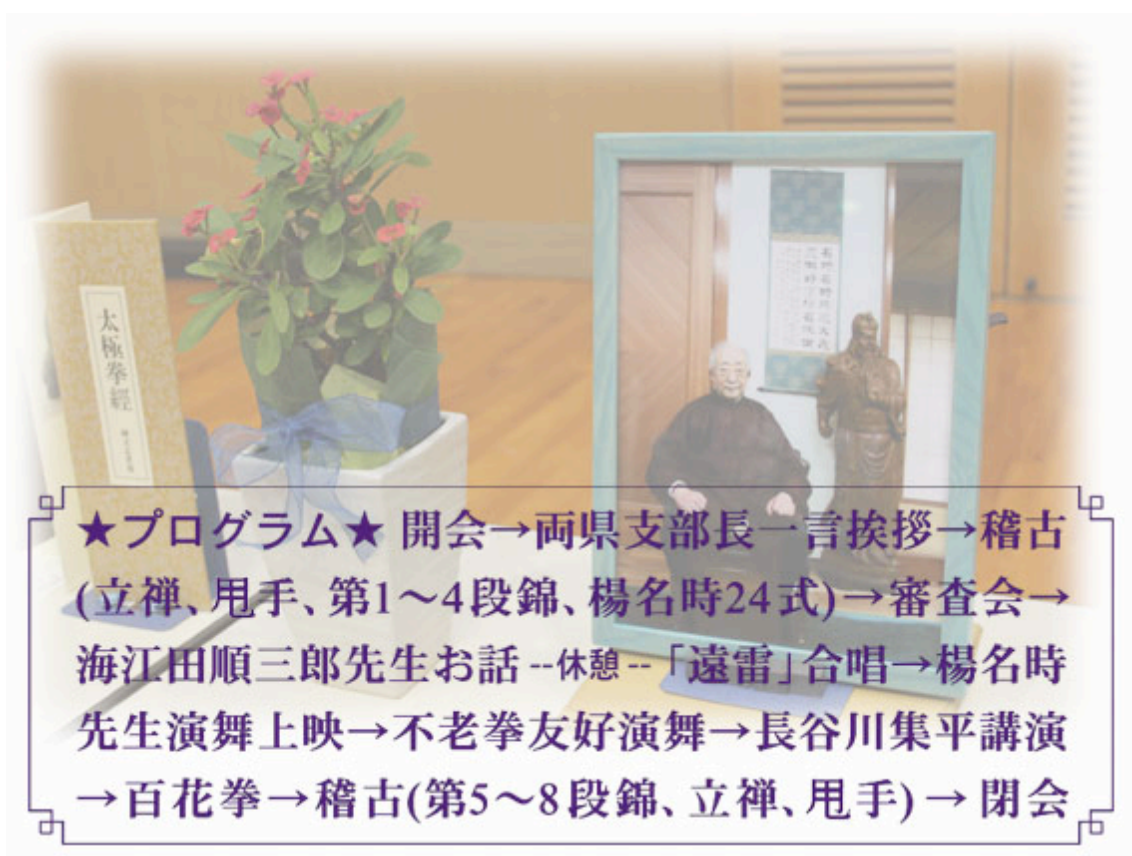
審査会は30名が日頃の稽古の成果を発揮、また、鹿児島全員での不老拳では、和の気で会場が満たされました。最後に百花拳、心ひとつに五重の大輪を咲かせました。

翌日、孔子廟での朝稽古は25名が参加、両県支部の友情を孔子様にご報告することができました。

充実した2日間、呵々大笑の思い出を残して心豊かに終了しました。多謝多謝。



写真レポート



★プログラム★ 開会→両県支部長一言挨拶→稽古
 (立禅、甩手、第1～4段錦、楊名時24式)→審査会→
 海江田順三郎先生お話--休憩--「遠雷」合唱→楊名時
 先生演舞上映→不老拳友好演舞→長谷川集平講演
 →百花拳→稽古(第5～8段錦、立禅、甩手)→閉会



開会 整列して鹿児島県支部のみなさんをお迎えました。 田畑支部長の挨拶。





審査 9教室30名が新しい階位を取得されました。おめでとうございます！



海江田順三郎先生のお話



初の試みとして会場に聴講ブースを設置。興味深いお話をじっくり聴くことができました。



楊名時先生の24式と八段錦上映

不老拳友好演舞



鹿児島県支部のみなさんの息の合った演舞、すばらしかったです！



長谷川集平 講演「楊名時太極拳の時代」

絵本作家・ミュージシャンの集平さん。毎回、審査・研修会のPAをお願いしています。



百花拳 100人で五重の大輪。

記念撮影 クリックで拡大されます。



左●審査を受けた人と役員、鹿児島県支部のみなさんで。 右●全員そろって。

撮影前のニコニコスナップ。



鹿児島から足を運んでくださったみなさんの友情で、幸せな大会になりました。感謝。

本部・他支部記念誌コーナーも作りました→



写真撮影協力●原口聡一郎(椿屋)、原口康恵、吉野史子

50周年の記念品を作りました

楊名時太極拳50周年を記念して、長崎の伝統ある波佐見焼に先生の最晩年の書を染付けした白磁の小皿を作り、大会会場で参加者にお渡ししました。

愛弟子のために書きおろしてくださった、先生のまあるく温かいお人柄が伝わってくるような書のお皿。全国の同学の朋にもお分けしたいと思い、販売することにしました。



波佐見焼「染付五寸和皿 楊名時 心息動」

直径●約15.2cm 高さ●約2.5cm 窯元●洗琳窯(長崎県波佐見町)
価格：1,500円(税込)

ご覧ください  [お皿の詳細](#)

「染付五寸和皿 楊名時 心息動」 制作に至るまで 長谷川くみ子

長崎県支部報「鶴の湊便り」31号(2010年11月24日発行)
「長谷川師範の毎日の薬味」その30より

楊名時先生が日本に太極拳を伝えて50年、これを記念するにふさわしい長崎らしいものは何かを考えました。会員のみなさんに還元できるステキな何か……。

書は人を現す。先生にお会いすることはもう叶いませんが、書となら、いつでも気軽に接することが出来ます。お人柄を偲ばせる書は私たちの心を和ませる力があります。書から出るいい気が部屋を浄化します。先生の書は太宰府天満宮にも宝物として納められています。

中国の上流階級の専有物だった太極拳を庶民に、さらに私たち日本人に開いた楊名時太極拳、その大切な心が書かれた書。上流階級の専有物だった白磁を江戸時代に庶民の雑器として普及させた長崎県の波佐見焼。この二つを結ぶもの、先生の書を波佐見焼でという発想がここから生まれました。

使って好し、飾って好し。美しい書を通して、先生と親しく、健康で美味しい暮らしになりますように。◆◆◆

右は波佐見焼コンブラ瓶。酒、醤油等、出島からの輸出用に生産された。



[●50周年記念ページトップ](#) [●懇親会](#) [●朝稽古](#)

[●活動記録 に戻る](#)

